

平成19年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	南アルプス雷鳥の保護と啓発活動
事業主体 (連絡先)	南アルプス雷鳥研究会 代表 田畑孝宏 (下伊那郡豊丘村神稲371-5 電話 0265-35-1902)
事業区分	環境保護
事業タイプ	調査・研究・発表
総事業費	232,750円 (うち支援金: 110,950円)

事業内容

- ・南アルプス塩見岳(6月29日~7月1日日)、北岳~農鳥岳(6月9日~11日、10月6日~8日)においてライチョウの生息調査を行った。
- ・今年度の調査結果と、26年前に信州大学教育学部生態学研究室で行った同様の調査の結果とを比較検討した。
- ・「日本ライチョウ会議」「信州生態研究会」「阿智村公民館セミナー」の発表会において、自然遺産としての価値と生息状況、保護策について報告した。



【南アルプスのライチョウ】

自己評価 (事業実施率) 【A】

【目標・ねらい】

- 南アルプスにおけるライチョウの生息状況を把握する
- 南アルプス生息するライチョウの自然遺産としての価値と生息状況を多くの方々に伝える
- ライチョウを含む南アルプスの自然環境の保全策をより多くの方々の理解と協力を得ながら検討し進めて行く
- 自然保護活動をととした地域の活性化を図る

自己評価 (目標達成率) 【A】

事業効果

- ・南アルプス塩見岳と北岳~農鳥岳におけるライチョウの生息状況を明らかにした。
各なわばり数 塩見岳13、北岳~農鳥岳14である。
この結果は、26年前に信州大学教育学部生態学研究室で行った同様の調査結果を21と49下回るものだった。
- ・日本ライチョウ会議(8月18・19日 大町市219名)、信州生態研究会(12月15・16日 長野市238名)、阿智村公民館セミナー(2月23日 阿智村63名)において成果を報告し、各種団体および一般の方々の理解深め、協力体制を得るにいたった。

今後の取り組み

- ・より多くの方々の参加協力を得ながら継続的な調査活動を行い、生息数の変動や自然環境の変化、保護策(天敵の捕獲による)の成果を見ていく。
- ・各種発表会や会誌などで南アルプスに生息するライチョウの自然遺産としての価値や生息状況の現状を紹介し、ライチョウを含めた南アルプスの自然環境保全に対する理解と協力を多くの方々に広めて行く。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。